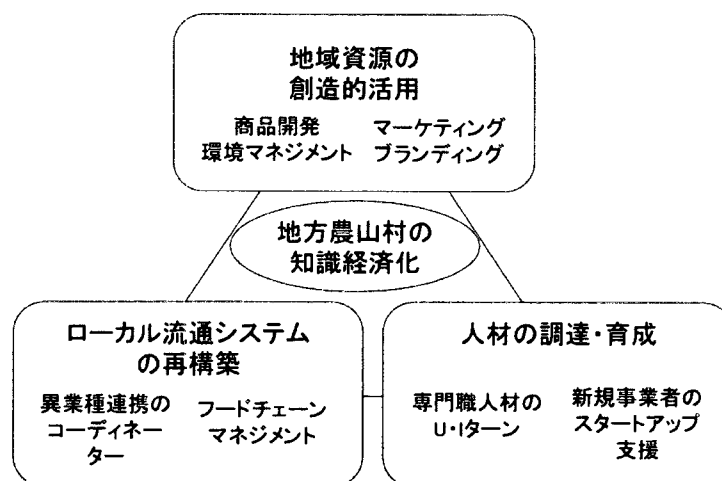


2-2 6次産業グループ

6次産業化・雇用創出グループでは、2013年度から3年間の科学研究費補助金（基盤研究C）の採択を受けて、「地域資源を活用した地方農山村の知識経済化政策に関する研究」を進めている。当初メンバーは、佐無田光・平田透・市原あかね・伊賀聖屋（2014年度より名古屋大学に転出）・安嶋是晴であり、2014年度に新たに吉田国光をメンバーに加えた。

地域資源アプローチの起源は、大量生産・大量流通の論理とは異なる、地域的個性に対応した多様な生産・流通の仕組みにある。これは、戦後日本の地域開発にはほとんど取り入れられてこなかったアプローチであるが、21世紀に入って、中小企業地域資源活用促進法（2007年）や、農商工連携促進法（2008年）、六次産業化法（2011年）などが相次いで施行され、農林水産品、産地の技術、観光、伝統文化など地域資源を活用した新事業や連携事業を支援する諸制度が整備されてきた。本共同研究は、地方農山村のおかれた後発性の難しさを十分考慮に入れながら、知識経済段階の競争に対応した地域資源の生産・流通の構造を解き明かすことで、現代の農山村振興の具体的な地域政策論に寄与しようとするものである。

本研究課題においては、右図のように、資源開発・流通管理・人材調達の3つの工程を統合したものとして、地域資源アプローチのマネジメント体系を構想している。これに対応して、①地域資源の創造的活用、②ローカル流通システムの再構築、③人材の調達・育成の3つの研究領域を設定し、①は市原（バイオマス資源の産業化）と平田（地域ブランド）、②は伊賀（ローカルフードシステム）と佐無田（異業種連携の事業創出）、③は安嶋（輪島漆器産業の再生）と佐無田（農村起業）が担当している。加えて、吉田は、6次産業化の背景に存在する、農地移動に関する社会関係を分析・研究している。なお、2014年度においては、平田が経済学類長の要職に就いたために、6次産業グループの主要な共同研究活動からはいったん外れている。



<本年度の研究会活動記録（個別の調査研究・報告活動を除く）>

2014年6月18日	第6回研究会（報告：吉田）
2014年8月 4日	第7回研究会（報告：安嶋）
2015年3月 4日	第8回研究会（報告：伊賀）
2015年3月15日～18日	北海道芦別市・帯広市調査（佐無田・市原）